

平成30年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の重点目標として、①中学部における生徒が友達と関わりながら、協働する力を培う学習活動の充実、②学校防災体制の充実（災害時児童生徒の引き渡し訓練の充実）、③小・中・高等部の一貫した支援の在り方、の取組3項目を挙げた。

重点項目の評価については、「8 学校アクションプラン（様式5）」に記載のとおり、達成度及び具体的な取組状況から総合的に判断して、3項目全ての取組において「達成した」又は「ほぼ達成した」とした。

学校評議員からは、重点項目について「具体的な取組状況から、重点項目はそれぞれの当初の目標を達成している」との評価をもらった。また、各重点項目について「授業で生徒の力を高めるとともに、実際の生活の中でその力を生かせるようにするためには、授業検討の充実を図り、学部全体の総意で授業づくりを行うとともに、教員全員の共通理解の基で指導を行うことが大切である。」「引き渡し訓練を実際に行ったことは、大きな前進であった。今後も災害に備えて、避難訓練や引き渡し訓練を続けていくことは大切である。その際、形骸化しないよう、内容の工夫を図って、保護者に意識をもって参加してもらえるようにすることが必要である。」「生活のリアル」を取り入れた授業は、保護者にとってはうれしいことである。授業づくり・授業改善の取組の中で出た意見を、児童生徒の力の向上につなげていってほしい。また、状況の変化に応じた研修を行い、指導力の向上を図ってほしい。」など貴重な提言をもらった。

7 次年度へ向けての課題と方策

学校評議員からの提言をうけて、次年度に向けては次の課題について取り組むこととしたい。

- ・ 生徒が友達と関わりながら、協働する力を培うため、授業検討を引き続き行い、実態に即した目標、指導内容、方法等について検討するとともに、授業で学んだことを実際の生活の中で生かせるようにするため、学部全体の学習活動の展開について協議する。
- ・ 保護者や教職員への防災意識を高めるとともに、引き渡し訓練等の手順の周知を図るため、学校防災委員会で、避難訓練や引き渡し訓練等の改善について協議し、訓練の充実を図る。また、保護者と連携をして訓練を継続して実施する。
- ・ 児童生徒の日常生活への般化を目指した学習指導の充実・向上を図るため、教員の指導力を高める研修内容の充実を図る。また、意見交換会で出された意見を柔軟に授業に取り入れ、児童生徒の指導に生かす。

8 学校アクションプラン

平成30年度 いしかわ総合支援学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動（中学部）	
重点課題	生徒が友達と関わりながら、協働する力を培う学習活動の充実	
現 状	本校では、平成21年度より「授業づくり・授業改善」に取り組み、平成28年度からは教科学習を取り上げ実践を行ってきた。また、「教師のための授業改善ポイント」による指導方法等の共通理解に加え、昨年度からは評価を通じて指導内容・方法を見直し、次の目標設定に生かす取組を行っている。 これまでの実践において、やりとりや協働の機会を効果的に設定したり、支援環境の工夫などを行ったりした結果、各生徒が主体的に授業に取り組み、自分の考えをまとめたり発表したりする課題解決の機会が増え、少しずつ学びを深める姿が見られるようになってきた。今後は、生徒の学びを一層深めるための支援の在り方や生徒自身が学習の成果を理解できる評価の在り方を検討していく必要がある。	
達成目標	授業づくりの検討会の実施回数	
	学部全体で年間5回以上	
方 策	・学部で年間2つの授業を取り上げ、それぞれについて「指導案検討－授業－事後検討－授業改善－事後検討」の流れで授業検討を行う。 ・学習会を通して、生徒の学びを深めるための支援や評価の在り方について共通理解を図り、授業づくりや授業検討に生かす。 ・学校生活や地域生活への般化を目指し、生活に根ざした学習内容を設定するとともに、他教科との連携を意識した授業づくりを教師間で共通理解する。 ・他学部の授業を参観したり他学部の教員に授業を参観してもらったりして得られた意見を参考にし、学びの系統性や一貫性について考えを深める。	
達成度	前期3回 後期4回 計7回実施	
具体的な取組状況	・前期は2年生数学、後期は1年生国語の授業を取り上げ、指導案検討、授業参観、事後検討を学部全体で行った。 ・生徒の学校生活の様子から浮かび上がった課題を基に、目指す生徒の姿を明確にして、それを解決できるような学習目標・学習内容を検討した。 ・授業検討に当たっては、①生徒が友達と関わり協働する機会の設定、②「知識・技能」を習得・活用する中で「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」が身に付くような学習活動の構成、③生徒に分かりやすい目標の提示や振り返りの機会の工夫の3点について共通理解を図り、その視点から検討を行った。 ・教師それぞれが対象生徒を担当する授業等で場面を設定し、学習したことを他の授業や生活場面でも生かせるようにした。 ・小学部、高等部の授業を参観し、意見交換会に参加した。他学部の教師との意見交換から、授業の目標の確認や学習評価の方法などについて、共通理解を図ることができた。	
評 価	A	達成した。
学校関係者の意見	・授業で生徒の力を高めるとともに、実際の生活の中でその力を生かせるようにするためには、授業検討の充実を図り、学部全体の総意で授業づくりを行うとともに、教員全員の共通理解の基で指導を行うことが大切である。	
次年度へ向けての課題	・適切な実態把握を行い、実態に応じて、生徒がより具体的に目標を意識して学習を進めたり、目標を達成できたかを振り返ったりできるようにする必要がある。 ・学習したことをより多くの生活場面で活用できるように、計画的な学習活動の展開を目指す必要がある。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成30年度　いしかわ総合支援学校アクションプラン　－　2　－			
重点項目	学校生活（教務部）		
重点課題	学校防災体制の充実　（災害時児童生徒の引き渡し訓練の充実）		
現　　状	本校は海のすぐ側に立地しており、大きな地震の発生によって津波が押し寄せてくることが予想されている。本校では、防災計画、指導計画、施設設備等防災体制に課題が生じた場合は、随時学校防災委員会を開いて審議し、改善を図っている。 今年2月に、津波避難用屋外階段が完成し、2階へと至る新たな避難経路が確保されたことで、今年度、PTA活動の中に防災に関する取組が計画されるなど、保護者の防災への意識が高まってきている。 そこで、この機会に、今まで口頭で保護者に説明してきた、災害時における児童生徒の保護者への引き渡しについて、実際の訓練を実施し、防災体制の充実を図りたいと考えている。 今年度、学校防災委員会で、保護者への連絡、待機児童生徒の掌握、引き取り人への確実な引き渡し等について十分検討し、地震津波等の災害時に保護者にスムーズに児童生徒を引き渡せる体制づくりを行いたい。		
達成目標	引き渡し訓練に係る学校防災委員会での検討	災害時児童生徒の引き渡し訓練の実施回数	
	年間2回以上	年間2回以上	
方　　策	・学校防災委員会において、地震津波等の災害時における児童生徒の保護者へのスムーズな引き渡しについて、内容や手順等の検討を行う。 ・学校防災委員会での検討事項を踏まえて、第1回“災害時児童生徒の引き渡し訓練”を行う。 ・第1回“災害時児童生徒の引き渡し訓練”の課題を学校防災委員会で検討し、第2回目以降に生かす。 ・PTA企画の防災学習会（津波避難用屋外階段を利用した避難訓練、防災士による防災学習会）と学校が連携し、保護者の防災意識が高まる取組を行う。		
達成度	2回実施		1回実施
具体的な取組状況	・実際に保護者に児童生徒を引き渡す訓練を初めて行うにあたり、臨時学校防災委員会を開催し、引き渡しの手順を再確認し、保護者の誘導に使用する案内ボード等を整備した。 ・訓練実施にあたって、諸係を対象としたシミュレーションを行い、諸係及び各学部で手順を確認し合った。 ・訓練実施後、臨時学校防災委員会開催し、職員からの反省、保護者からの感想や意見等について共通理解を図るとともに、今後の課題について協議した。協議の結果を踏まえ、引き渡しカードを一部改訂するなどした。 ・実際の引き渡し訓練は1回しか実施できなかったが、保護者が多く来校する学習発表会の日に防災活動報告のコーナーを設け、訓練の様子や保護者の感想、改訂した引き渡しカードの紹介を行い、保護者等への防災への理解啓発を行った。 ・PTAの防災学習会には、約50名の児童生徒保護者等の参加があり、津波避難用屋外階段を使った避難の体験をしたり、防災士による講義を聞いたりした。		
評　　価	A	達成した。	B　　ほぼ達成した。
学校関係者の意見	・引き渡し訓練を実際に行ったことは、大きな前進であった。今後も災害に備えて、避難訓練や引き渡し訓練を続けていくことは大切である。その際、形骸化しないよう、内容の工夫を図って、保護者に意識をもって参加してもらえるようにすることが必要である。		
次年度へ向けての課題	・他の分掌等と連携しながら、引き渡し手順の見直しをしたり、引き渡しカード等の改良、点検、整備を行ったりしていく必要がある。 ・保護者と連携して訓練を継続して実施し、保護者や教職員への防災への意識を高めるとともに、引き渡し手順等の周知を図る必要がある。		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他（研修部）			
重点課題	小・中・高等部の一貫した支援の在り方			
現 状	平成29年度と30年度は、学校課題を「小・中・高等部の一貫した支援を目指した授業づくり・授業改善」とし、2年計画で研究を推進している。この研究においては、観点別評価など評価の在り方について重点的に検証し、「何が身に付いたか」の評価を通じて指導内容・方法を見直し、次の目標設定を適切に行うPDCAサイクルに基づく授業実践に取り組んでいる。昨年度は、「教師のための授業改善ポイント・授業改善シート」の評価の領域に「観点別評価」の項目を加え、学習指導案には「評価規準」を記載し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点を意識した授業づくり・授業改善を行ってきた。今年度は、観点別評価に関する学習会等を計画的に実施し、3学部で共通理解を図ながら、評価の観点から、目標及び指導内容・方法の検討を行っていく。 この研究実践を通して、小・中・高等部の一貫した支援体制が推進され、実際の生活場面で確実に活用できる力を育む授業づくり・授業改善を進めていきたい。			
達成目標	授業研究の実施回数		他学部の授業参観及び意見交換会の実施回数	
	年間2回以上		年間2回	
方 策	・「教師のための授業改善ポイント」を全学部が共通ツールとして活用し、共通の視点で授業づくりに取り組む。 ・3観点の評価規準を取り入れた授業を公開し、授業研究を行う。 ・大学教授を招聘し、授業参観後、指導内容・方法について指導助言を受け、授業改善を図る。		・他学部の授業を参観して意見交換を行う機会を設け、小・中・高等部の一貫した支援について検討するとともに、自分の指導を振り返り、所属学部の授業に生かす。 ・参観者は「教師のための授業改善ポイント」の項目を基に、他学部の授業を客観的に評価する。	
達成度	前期1回 後期1回 計2回実施		前期1回 後期1回 計2回実施	
具体的な取組状況	・各学部で対象授業(前期1、後期1)を決め、授業検討(指導案検討→授業①→事後検討①→授業②→事後検討②)を行った。 ・観点別評価に関する学習会等を、全体研修会や学部研修会で実施し、共通理解を図りながら、授業検討を行った。 ・学習指導案には「評価規準」を記載して、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点を意識した授業づくり・授業改善を行った。		・各学部で授業公開日を決め、他学部の授業を参観した。その際、小学部、中学部、高等部での学びの系統性を意識しながら参観した。 ・他学部との意見交換会は、小・中・高等部の教員を縦割り3グループに分け、①評価(「観点別評価」「振り返りや称賛の機会)」について、②小・中・高等部の系統性、一貫性について、の観点で、自分の所属学部での指導と比較しながら協議を行った。その後、学部研修会にて報告会を行い、学部としての課題解決に向けて共通理解を図った。	
評 価	A	達成した	A	達成した
学校関係者の意見	・「生活のリアル」を取り入れた授業は、保護者にとってはうれしいことである。 ・授業づくり・授業改善の取組の中で出た意見を、児童生徒の力の向上につなげてほしい。また、状況の変化に応じた研修を行い、指導力の向上を図ってほしい。			
次年度へ向けての課題	・児童生徒の日常生活への般化を追求した「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点からの学習指導の充実・向上を図る必要がある。		・他学部授業参観及び意見交換会から得られた他学部からの意見・指摘を柔軟に取り入れ、各学部で協議して授業へ反映する必要がある。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)